

会議録（要点筆記）

会議の名称	第3回葉山町立図書館あり方検討委員会
開催日時	令和元年11月19日（火）午後2時から午後6時00分
開催場所	葉山町立図書館 2階 ホール
委員出席者	千委員長、大塚副委員長、新井委員、植田委員
事務局	井上生涯学習課長、野田図書館長、木下副主幹、山口主査 鈴木非常勤司書
会議の議題	<p>1 第3回葉山町立図書館あり方検討委員会</p> <p>（1）開会</p> <p>（2）議 事 葉山町立図書館の今後のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に応じた読書相談のあり方について ・快適な読書環境の実現について ・図書館サービスの観点から見た附属施設のあり方について <p>（3）その他</p> <p>2 閉 会</p>
会議資料	<p>1 前回の会議録</p> <p>2 葉山町立図書館の今後のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に応じた読書相談のあり方について ・快適な読書環境の実現について ・図書館サービスの観点から見た附属施設のあり方について <p>3 平成30年度葉山町立図書館の概要</p>
議事録の作成方法	要点筆記
記載内容の確認方法	出席した委員全員の確認を得ている。
公開・非公開の別	公開
傍聴者数	1人

1 第3回葉山町立図書館あり方検討委員会

(1) 開会

下位委員が一身上の都合により、10月31日をもって委員を辞職したことを報告した。

事務局より資料の確認と本日の出席委員は4名で、葉山町立図書館あり方検討委員会規則第5条に基づき、過半数に達していることが報告された。また、傍聴人が1名いることが委員長に報告があった。

(2) 議 事

委員長：利用者に応じた読書相談のあり方について、事務局から説明をお願いします。

事務局：利用者に応じた読書相談のあり方について資料に基づいて説明

3 利用者に応じた読書相談のあり方について

3-1 子ども読書活動の推進

3-1-1 蔵書の充実

3-1-2 行事・イベント

3-1-3 中高生へのサービス

3-1-4 情報発信

3-1-5 子どもに関わる施設との連携

3-1-6 学校支援

3-1-7 読書がしにくい子どもへのサービス

3-1-8 子どもを取り巻く大人への支援

3-2 高齢者支援

3-2-1 利用しやすい環境整備と使いやすさの向上

3-3 図書館の利用に障害のある方に対する支援

3-3-1 図書館利用に障害のある方への支援

(3-3-2 特別支援学級等へのサービス)

3-4 日本語を母語としない方に対する支援

3-4-1 多言語資料の収集・提供

3-4-2 利用案内

委員長：今の説明の全体に対して確認や質問があればお願いします。

委員：障害者の中で視覚障害者は、町内にどれくらいいるか。

事務局：障害者としての図書館への登録という形では把握していない。

委員：事務局ではわかるのではないか。

事務局：数字を把握していないが、福祉課で確認する。

委員：点字図書60冊や録音図書36冊は、一定程度いたから購入したということ

ではないか。そこを把握しないと図書館でなにをするかはっきりしたこと
言えない。

事務局：録音図書は一般の方が借りていくことが多く、図書館で視覚障害の方が
借りることは現状としてはない。

委員長：町内でニーズがどれくらいあるのか確認は必要だ。それ以外で何か。

委員：点字図書は一般書も児童書も含めた60冊か。

事務局：そうだ。

委員：貸出の状況はどうか。

事務局：点字図書の貸出はほとんどないが、絵本に付録として点字が付いている
点訳本は、貸出がある。

委員：葉山で視覚障害の子供向けに点字の絵本を作っている方がいらっしや
る。図書館で貸出があるなら連絡を取ったほうがよい。デイジーは図書館
にあるのか。

委員長：最近マルチメディアデイジーの方が、音だけでなく画像も見ることが
できるので、普通の子どもたちも楽しめる。伊藤忠財団でいろいろ対応し
てくれるようだ。

事務局：障害者手帳を持っていない方でも貸出できるデイジー図書も提供されて
いる。

委員長：横浜市の盲学校の図書館見学を何回かさせていただいたが、やはり伊藤
忠財団から色々支援を受けて喜ばれていた。実際に点字を読める方は視覚
障害者の2、3割と言われている。中高年になってから視覚障害になった
方はなかなか覚えられないため、点字図書を増やすよりはマルチメディア
デイジーを増やほうが良いと思う。あと、インターネット端末が1台ある
が、読み上げソフトを活用することも考えられる。子ども向けの触る絵本
とか布絵本などはあるか。

事務局：あまりないので、これから考えていきたい。

委員長：触る絵本とか布の絵本とかあれば、普通の子ども達も楽しめるので検討
いただきたい。

委員：町内で音訳をされる方とかはいられるのか。

事務局：音訳の会の方が紙芝居を多く借りていかれたりする。

委員：音訳の方が作った資料があるのではないか。

事務局：どのように利用されているのかまでは把握していない。

委員：町の広報や新聞、雑誌など、その時聞きたいものを音訳している方が
多い。

委員：音訳の方がそれだけいるということは、町内にも視覚障害の方は結構い
るのでは。人数を把握しておいた方がいい。

事務局：これをきっかけに福祉部と連携を図っていきたい。

委員長：町内で障害のある方のニーズの確認と、音訳をやっている団体とコンタクトを取ってみたい。それからマルチメディアデージーを積極的に活用してほしい。触る絵本、布の絵本なども考慮してほしい。また、障害者の郵送サービスについて、障害者手帳を持っている方は送料図書館負担ということ検討してほしい。3-3はここまでにして、最初に戻る。

子どもの読書というところでまずは3-1蔵書の充実について意見を伺いたい。

委員：図書購入予算が26年から変わっていないが、大体決まっているのか。

事務局：そうだ。

委員：児童書はどうか。

事務局：年間で一般図書2500冊、児童書1500冊程度を購入している。一般図書と児童書の割合の変更は検討している。

事務局：予算としては全体として720万円弱で4年程推移している。

委員：雑誌はどうか。

事務局：全体のうち、一般図書及び児童書等560万円程度、残りは雑誌類となっている。

委員長：ぜひ、予算を増やして頂きたい。資料あつての図書館であり、職員の充実と両輪がないと図書館サービスの充実を図ることはできない。図書館システムなどにお金がかかってしまうかと思うが、資料費は、次の世代の葉山の町を背負って立つ若者達を育てることで、将来納税者として還元してくれると思いますので、ぜひ確保してほしい。

次の3-1-2行事、イベントについて、課題はヤングアダルトサービスということだが、中高生向けのイベントがあまりない。何か、気づいた点などあるか。

委員：つぼみのおはなし会、おはなし会は、相当集まっているか。

事務局：幼稚園から小学校低学年対象のおはなし会の人数が少し減ってきている。0歳から2歳児のつぼみのおはなし会が多い傾向にある。

委員：参加者は毎回来る方か。

事務局：決まった方が多い。

委員長：会によって違うと思うが何組くらいか。

事務局：少ないときは2組の時もあるが、平均10組前後。働いているお母さん方が多いので、参加しづらいというのものもある。

委員長：土日開催はできないか。貸出室で大きな声で読み聞かせすると周りの方に迷惑だったりすることもあるかもしれないが、検討はされているのか。ボランティアの方の都合とかもあると思うが。

事務局：ボランティアではなく、職員が実施している。土日開催はこれまで検討はしてこなかった。

委員長：本来の業務が疎かになっては本末転倒だと思うが、土日開催は集客を考えたら検討してもよい。

事務局：今後検討していきたい。

委員：土日に小学校の中学年・高学年が聞いても楽しいおはなし会があるとい

委員：難しければ、夏休みだけの会でもよい。

委員：ヤングアダルトは気まずい気がするのではないか。

委員：図書館に行くのは幼稚みたいなイメージにとられるのはこわい。

委員：おはなし会でも、面白い本を紹介すると一番盛り上がる。

委員：きちんと色や絵を使って表紙を作ったり、きれいに解説を付けたりしてこの本が良いですよってやっていると思うが、それを伝えられるとよい。

委員長：ブックリストもすごくしっかりきれいに作られている。

委員：それが伝わってないとするともったいない気がする。

委員長：ブックリストのネタはあると思う。

委員：学校図書館にいろんな本を貸し出していると思うが、展示もしてもらったりしたらいい。

委員：夏休みからだけでも始めてみたらよい。

委員長：学校との連携の話にも繋がってくるが、せっかく図書館のおすすめの本のパンフレットとかチラシがあるので、紹介した本を団体貸出とかするのはすごくいい。それから本を使ったゲームで、一回ちゃんと読んで、その後、一緒に読み聞かせをしながら本を読まないといけないクイズしたりする、アニメーションというものがある。ボランティア団体に、イベントとかをお願いして読み聞かせをする図書館も多いが、逗子などはどうか。

委員：逗子では職員もやるが、土曜日のおはなしの会をボランティアにお願いしている。職員はわらべうたの会など出向いてやることも多くなり、手が回らなくなってきている。

委員長：丸投げはよくないと思うが、少しお願いするのはボランティア団体も活動の場が欲しいだろうし、図書館はイベントが増えることで来館に繋がるのでよいのではないか。

まとめると、開催の曜日を考えるということ、小学校の中学年、高学年向けイベントやブックトーク、例えば夏休みにやるとか、本の紹介を兼ねてブックトークをするとか、学校図書館で紹介した本の団体貸出をするとかというところなど、検討してもらおうとよい。

次に中高生のサービスについてだが、うまくできている図書館は少ないので、皆さんから忌憚のないご意見を頂きたい。

委員：中学生と高校生の子どもに、なんで図書館に行かないのって聞いてみたら、部活と勉強と忙しいと言っている。ただ、中学校になると学校の図書

館予算が増えるので、直木賞とった人の本を買おうかなとか話したら学校にあったよと。だから中学校の図書室で満足にしている部分もあるようだ。みんなが読んでないということでもない。

事務局：中学校の図書室は昼休みしか借りられないという話も聞く。

委員長：学校司書の充実ということにも関わってくる。

委員：朝読書をやっているはずなので、朝読書のおすすめとして団体貸出ししたりすると興味がわくかもしれない。

委員長：どんな本が面白いかわからない子も多いので、これは絶対読みなさいと強制するのではなくて、紹介してあげるのは、すごく有効だと思う。

委員：葉山中学のPOP大賞というのは中学から図書館に話があったのか。

事務局：そうだ。最初に先生から話があった。

委員長：普通は自分達の学校図書室に飾って終わりだが、公共の場に出せるくらいちゃんとしたクオリティがあるのはすごい。

事務局：葉中でPOP大賞の展示をはじめた先生が、今長柄小学校におり、今年やりたいということで葉中と一緒に展示する予定となっている。先生との連携は必要だ。

委員：見た人の感想は結構大事だ。紙に感想を書いて貼るのでも良いから、どうゆう反応があったのかを聞くとよい。

委員長：町民と中学生の交流になるのでよい。そうすると、POPを作った子ども達も展示を見に行こうという気になる。この取組は非常に良いと思うのでどんどん継続してほしい。まずは学校との連携で、呼び寄せるというよりも、こうしたイベントや行事で少しずつやっていく方向が良いと思う。

委員：学習室について、子どもになんで葉山でなくて逗子を使うのって聞いたから、葉山の机はいたずら書きがあつてすごくやる気をなくすと言っていた。また、逗子の学習室は窓に面していて集中できるが、葉山は向かい合わせで、かなり広いスペースの机に椅子が置いてあり集中しにくい。ヤングアダルトサービスをどこまで頑張るのかにかかってくると思うが、本気で呼び込みたいなら学習室を貸出室の窓側に配置して、書架を通っていくようにして、ちょっと一息ついた時に面白そうな本があるというのが理想的。葉山の図書館は書架を通らないで済むので、どこまでその子たちのために気合いを入れてやるのかによる。学校図書室の整備に力を入れるのもよいし、図書館でやるとしたら子どもたちのために少し環境を整えていく必要がある。

委員長：この後後半で学習室についても検討するのでそのあたりも踏まえない。

事務局：この間中高生議会があつて、その中で葉山中学校の生徒からやはり、個室的な学習する場所が欲しいという意見があつた。現状では4人掛けの机なので難しいが、仕切りの形を工夫して配置をしている。それでも言われ

ているような形の空間にはなっていないかもしれない。

委員長：机の落書きとかは対応できるか。

事務局：検討する。

委員長：YA向けの資料についてはどうか。

事務局：資料収集の考え方の参考にしたいので、どのあたりまで公立図書館としてどうやって行くべきかご意見いただきたい。受験問題集とかはどうか。

委員：逗子では他に購入する必要がある図書がたくさんある中で、毎年更新しなければならない問題集だと費用がかかる。学校案内は毎年購入している。

委員：楽譜はどうか。楽器などをやっている、あれば結構使う人はいるんじゃないか。

委員：楽譜は一般書も含むのか。

事務局：本の中に楽譜が掲載されているものがある。楽譜のみはない。

委員長：流行りの曲をピアノで弾こうなんていう本はある。

事務局：そうゆうハウツー本のような図書は所蔵している。

事務局：楽譜が欲しいという方が来られたら、横浜市立図書館に所蔵があるのでそちらに頼っている。

委員：楽譜が欲しいという人は、この曲のこの楽譜が欲しいとなる。あえて揃えておく必要はないと思う。

委員長：あとは人気があるのは、いわゆるライトノベル。マンガは置いているのか。

事務局：置いている。

委員長：「はだしのゲン」とか「サザエさん」みたいな定番だけでなく、それ以外はどうか。

事務局：手塚治虫さんの「ブラックジャック」とかもある。

委員長：ただ、図書館は本屋ではなく社会教育施設なのでどこまで置くかというのが。予算全体のバランスもあり、マンガを増やすと今度は管理も大変になる。盗難もあるし簡易製本なので壊れやすかったりもする。あと、続き物だと誰かが借りていると次が読めないなど扱いづらい。ただ集客力はある。

委員：バンド・デシネというのがあるが。

委員長：バンド・デシネはフランスのマンガでアメリカンコミックみたいなものだが、図書館で所蔵しているとある。

事務局：「タンタンの冒険」とかが該当すると考えている。

委員長：ティーンズ向けのファッション誌とか、ポップティーンとかセブンティーンなどはどうか。ただ、1、2冊では集客力がないかもしれない。全体予算を考えると何か特別に充実させるのは、ちょっと厳しい。

委員：YA向けの資料は、高齢者も手に取る。児童書だとちょっと簡単すぎるが、YA向けだと丁度良かったりもする。方向は違うが、一番利用されやすいかもしれない。

委員長：後で館内のレイアウトについて検討するが、ヤングアダルトの書架を児童書架にくっつけると、大人扱いして欲しいので反発もある。年配の方にとってもYA向けの資料は入門書としてわかりやすかったりもするので、レイアウトを考えたほうが良い。

次に情報発信について、鎌倉市図書館ツイッターが紹介されたが、SNSによる情報発信についてはいかがか。

委員：これはやったらいいと思うが、専属の人が必要になると思う。ツイッターは毎日やらないと意味がない。イベントのある時だけしか入れないと全然フォローがされない。でもインスタ、ツイッター、フェイスブック全部連携出来るので、どこか核にして連携すれば、全部に乗っていく。そういう専属の人を作れるかどうかによる。

委員長：若い人の心をぐっと掴むような形で発信できるか。ただ業務でやるんじゃなくて楽しんでやれないと難しい。

委員：藤沢の図書館は、今日は何の日をテーマにした写真を毎日出している。毎日発信することってあんまりない。何日におはなし会がある、ということを繰り返してもしょうがないので、これをやりますみたいなことを作ってから始めるとやりやすいかもしれない。

委員長：葉山町の秘書課とか広報課とかは上手なのは。

事務局：インスタ写真の出し方といいますか、職員が割と時間があれば町内を回って色んな所を撮影している。

委員長：毎日、職員さんが今日の1冊とかは大変。中身も読んでなければ紹介できない。

委員：写真載せるとすると著作権もあるか。

委員長：面は、大丈夫だと思う。

委員：金沢文庫もツイッターやっている。毎日ではないが管理課の職員がやっている。図書室の情報も時々入る。割と見られているようだ。博物館だから、そういう面もあっていいのかなとは思う。

委員：お知らせをホームページに載せるとか、同じ文章をツイッターに載せるなら、どの媒体が人を集められそうか。

事務局：例えば水曜日のおはなし会があることを利用される方は分かっているかもしれないが、ツイッターで登録をしていただければその都度お知らせを届けることができるので忘れないで参加していただけるかもしれない。ホームページではアクセスしないと情報が得られないので、お知らせができるという点は違いがある。

委員：図書館が動いている感じが伝わる。

委員長：こんな風に準備をやっているとか、おはなし会やっていますとかできる。後ろから撮った写真だけでも雰囲気はわかったりするんで、そういったビジュアルも結構大事。プラスアルファでなんか面白い雑談というか持ち掛けも必要なので、中身をどんな風に運営してくるところをある程度しっかり決めてからやらないと本当にただのホームページのお知らせみたいになってしまうので、あと担当の方が楽しんでやれるのは大事。

事務局：町だとしおさい公園がフェイスブックで「はなごよみ」をやっている。公園の中で花が咲くとフェイスブックで紹介する。割とそれは定期的にやっている。

委員長：入り口の展示も定期的に変わるとか。そうゆう所からでもいいかもしれない。

委員：図書館のホームページを携帯で見ることが出来ない。

委員：携帯で見ると蔵書検索がない。携帯では出ないのでなんとかならないか。

事務局：図書館独自のホームページはなく、町のホームページに蔵書検索システムのウインドウをリンクで貼り付けている。

委員：ホームページを見たことがなくて、蔵書検索しかしたことがない。そうゆう方も多分いる。

委員：「葉山図書館、蔵書検索」で検索するとリンク先のURLが出てくるので、蔵書検索のページに一発でたどり着く。

事務局：図書館の活動に関する情報をいろいろと出しているが、町のホームページに載っているんで、あまり気が付かれていないかもしれない。

委員長：ホームページもスマホもアクセスの利便性が大事だ。こういう意見が出たので検討することにする。

「3-1-5子どもに関わる施設との連携」について、現状では具体的な視点が無いので今後検討していく。

事務局：学校との連携については、まずはきっかけを作っていくことが必要だ。

委員長：児童書の除籍本や、寄贈本で図書館の蔵書にならない本は、蔵書にふさわしくない本なので、あまり考えずに提供するわけにもいかない。

事務局：例えば、学校の支援の所で説明した図書館利用の手引きみたいなものを関係の施設とかにも団体貸出等でできるとよいかもしれない。

委員長：次回の第4回で検討もあるので、もう少し他の子どもに関わる施設と、どう連携していくかという所は、次回詳しく検討したい。

次は「3-1-6学校支援」ということで、葉山町の現状と他の先進的な事例ということで紹介があったが、忌憚ない意見をいただきたい。

委員：図書館見学は3年生が、小学校は3校ということだが、4校やれば、全

3年生になる。今はやっていないかもしれないが、大磯の図書館で、学級招待という名前で、大磯は2校しかないが、必ず見に来て図書館の説明をして、登録ない人は登録してもらって、貸し出しをするという。これは結構な効果があったと聞いている。だから、図書館見学ではなくて図書館が主体になって3年生も、みんな来てもらうようなやり方をしてもいいんじゃないか。ただ、図書館に近い所はいいけど遠い所は、お父さん、お母さんに連れていってもらってない。それをどうするかというところ。だから、学校の図書館で団体貸出するのは当たり前のようにやるということと連動しないと、学級招待で来てもらっても発展しない。せつかく、3校来ているから、できると思う。

事務局：1校、来てない小学校、上山口小学校で1学年、児童数が少ない。古墳の見学なども1学年人数が少ないので2学年一緒に、隔年という形で、実施している。声掛けはしたほうがいい。

委員：バスに乗ってとか、費用がかかってしまう。公用車とかはどうか。

事務局：昔はバスがあったが今はない。

委員：20数名しかいない。

委員長：図書館が小学校に出張して、例えば、その学年全員に利用カード作ってもらったりとか、それをきっかけにしてブックトークとか、学校の中で出来るたりすると、また、そこから繋がったりもすると思う。

委員：学級訪問ということか。

委員長：私の所でも、中学校1年生の時に図書館の方が4月か5月に来て、全員分のカードをその場で作って配布していた。例えば図書館に来れない子どもたちのために、図書館職員が行って図書館ではこんな仕事をしている、ということ、一緒に先生と授業とかにまで持っていけると一番良い。準備や授業時間の確保とかいろいろあると思うが、向こうから来れない所はこっちから行くなど何か出来ればいいと思う。小学校、中学校で1回でもいいから、図書館との繋がりを作ることができる。色々と提案を出して頂いているが、団体貸出の中におすすめの本を入れてみるのもよい。

委員：発展的な授業活用のための貸出セットというのは、副本を揃えるということか。これが果たして指導の関係で、どうなのかなって出てくると思うし、力を入れるならここを重点的にやるよというようなことは考えられるけど、それが、一番良い例なのかどうかというのが、難しい所。

事務局：学校教育課の指導主事と話をしたところ、学校貸出セットがあれば授業に使えるので有難いが、そのためのリストを先生たちが作る時間がとれないと聞いている。ある程度こちらで色々と仕掛けを作ってやっていくようにしないとなかなか学校の方では難しい。

委員長：本当は図書館側が色々資料を用意して、こんな事業出来ますよ、モデル

ケースがこう、提示できると先生達はそれに乗っかるだけなので、すごく楽だったりする。指導案なんかもある程度作ってあげて、それもやはり教育委員会の中で指導主事と綿密にやっついていかないといけないと思う。ただ、資料だけ用意しても、それを使って先生達がどうやって指導していかないと教科書をそのまま使った方が楽でいい、となるので教育委員会の指導主事の先生達とかとしっかり話が出来ないと資料を集めただけで終わってしまう。毎年こういう授業があるから図書館の資料を使ってくれるみたいなことにならないと、集めただけで、貸し出しがないとか、とりあえず学校に貸し出しているけれど、実際の授業では使われなくて休み時間に子ども達が見る程度だった、ということもあり、学校にどこまで入り込めるかというのは難しい。行政組織として図書館と学校の連携を進めているところもあり、教育委員会や町長の方針で進めていかないと、実際には難しい所はある。

委員：P T Aの配本は葉小だけか。

事務局：葉小が一番大きくやっているが、一色小でも学級文庫をやりだしているので、段々と広がってきている。

委員：P T Aが学校の中に入ってやっついてくれている感じだと思う。ぐいぐいやらないとどうしても学校をこじ開けられないので、やはり図書館など対等な立場でいかないと難しいところもある。先進的な事例はすごく良いと思った。学校司書も学校ごとにならずと同じ方がやって、人によって選書がその人に偏る。図書館の職員がしっかりとした情報をもとに、小学校の選書も行うのが理想的だ。

事務局：図書館としても子どもにとって分館的な機能を持たせられる。ただ、学校との連携があまり無い状況なので、そこまで一足飛びにはなかなかいけないかもしれない。まず顔と顔を付き合わせる連携を作っついて、そこから先に進むのがいいと思う。

委員：学校との連携は目玉になりうる。これは、真剣に考えてできればやるのではなくて、やる方向で、そうゆうことをやっつくんだっという覚悟はあると思う。これは絶対目玉になる。

委員長：あり方検討委員会では、これを目玉にして、学校と公共図書館の連携を提言したい。今後、少子化の中で学校教育は重視されていくので、図書館と学校図書館の連携は目玉にはなるという忌憚のない意見を言っつていただいた。予算などは置っつておいて、理想的な形を我々の中である程度、提言してっつてもいいと私も思う。

事務局：かつて町では、町職員の図書整理員を配置していた。現在のような図書整理員ということによいのか、もう一度考え直すきっかけになるかもしれない。

委員長：少なくとも学校図書館の担当である学校司書は必要だ。横浜市は全員配置になり、横須賀市でも毎日ではないが、最近全校配置になった。非常勤職員は学校や教育委員会の中では非常に弱い立場なので、学校図書館で実現したいことを校長先生に申し上げにくい。学校によって図書館の対する思い入れが違ったりもする。公共図書館の職員として学校図書館に配置される方が一人職場にならずにみんなで共有できる。事例として紹介された自治体以外に、浜松市などでも図書館に司書の部署があって、そこから派遣をしている。千葉県の袖ヶ浦市でも、学校図書館と図書館の連携が昔から盛んだ。

事務局：県内では公立図書館から学校司書を派遣しているというのは聞かないが、あるか。

委員長：ないと思う。

委員長：6校すべてに1人ずつ配置しなくても、2人程度で始められると思う。新しい試みだ。実際、やっている事例も多い。

委員：葉山町に丁度いいかもしれない。大きすぎても難しい。

事務局：図書館司書が選書するのは学校図書館にとってもありがたいと思う。

委員長：学校ごとのバラつきもなくなる。公共図書館の司書として学校図書館担当を置く部分を強く目玉にしたいと言うことでよいと思う。実務面など町の組織上、学校教育の部署で行った方がよいという意見もあるかもしれないが、我々の意見としては、図書館に所属する学校司書が配置され、図書館のノウハウが学校図書館に連携できる体制にしていきたい。人件費はかかるが、子育て世代にとってその地域の教育がしっかりしているかなどを考えて住む場所を決める人は多い。葉山はそういう所を頑張っているとか、学校教育がとっても良いとかをアピールできる。町にとってもそこにまた住もうとか、成人になって納税者になることも増えてくると思う。是非ここは強く今回の目玉ということで、取り上げて頂きたい。

委員：学校の先生もすごく忙しいうえ、図書に関する専門的な知識もない。何を選んでいいんだろうになるので、学校図書館にはちゃんと知識を持ち、相談に乗ってくれる専門的な人材が必要だ。

委員長：司書教諭は専任の司書ではなく、図書に関する知識があまりないので、図書館からしっかりしたノウハウを提供する形が良い。

続いて3-1-8「子どもを取り巻く大人への支援」について、現状では職員が関係団体と情報交換したり、図書館主催の読み聞かせ研修会に読み聞かせの団体に参加の声がけをしたりしているということだが、引き続きやっていくということだが。

事務局：2月に1回目とは別の講師を呼んで研修会を行う予定だ。

委員長：引き続き行っていくという形で、よろしいか。その次が高齢者支援につ

いてだが、ワークショップの意見は意見として受けとめ、今後の方針としては、大活字本の充実を図るということだった。実際によく借りられているという話だが、どうか。

委員：高齢者と言っても昔のような高齢者ではなく、みなさん元気。70歳以上の高齢者を対象に万葉集を読む会をやったら、読むだけのなのか、となった。みんなもっと研究がしたいという。求めていることがこちらとどうも違う。高齢者がどんな本が必要かわからないと貸出に繋がらない。

委員：70代以上をひとまとめに高齢者とするのはいけないかもしれない。

委員：私もそう思う。

委員長：70代、80代。

委員：70代をいわゆる高齢者とは呼ばないと思う。

事務局：図書館利用の中心がこのあたりの世代。図書館に来て本を借りていく人たちは正直我々と変わらない。ただ、視力や体力が落ちているところがあるので、その辺を支えるサービスは必要だ。それ以上のことは求めている所もあるかもしれないので、高齢者サービスの中身については丁寧に検討する必要がある。

委員：健康寿命も考えながら、図書館として出来ることはきっとある。

委員：そういうことをわかってない人もいる。高齢者はかなり専門的なものを見ている人が多いと思う。テーマを決めて読んでいたりする。

委員：読み比べている。

委員：我々が高齢者について持っている認識は実際には全然違っていることがある。逆に教えてもらうことが多い。

委員：大活字本の充実とPRは、是非進めてほしいが、大活字本は分厚いので書架の確保が同時に必要になる。書庫にあると意味がない。

委員長：書架の話はまた3-4の所でしたい。今日も特集コーナーで、未病を取り上げていた。高齢者の方は医療とか健康情報などについて興味関心持っている方が多いと思う。健康情報は年配の方だけではなく、中高年以上は興味関心がある。そういったコーナーを作ったり資料を充実したりするのはいいと思う。ほかに遺産相続とか終活などのコーナーを作ったりするとニーズがあると思う。特集コーナーとかですごいとかありますか。

事務局：毎回、設けるとそこから本を取っていく方は多い。

委員：美術館などから送られてくると思うが、こちらから出向いて、最新の冊子などを図書館に置くのもよい。

委員長：国立がんセンターでは、がんの冊子を図書館に配布していて、横浜市でもパンフレットを置いてあったりする。国立がんセンターの情報なので、正しい知識なので、そういった冊子も活用できる。健康医療情報をしっかりやる図書館はたくさんあるので、参考にしたほうがよい。高齢者向けの

イベントとかやっても来ると思う。自分の親が地元の図書館でお城の講演会を学芸員が来て話したのを聞きに行ったらすごい満席だったと言っていた、年配の方が好みそうな話題などで来館促進するのはありだと思う。

事務局：生涯学習課で文化財講座を実施しているが、展示などと合わせて図書館と連携して進める工夫をすることはできると思う。

委員：町づくり協会の中に郷土史関係の団体もいるので、そういう方たちにやっていただいてもよい。

事務局：文化財講座は加盟団体の方と協力してやっている。

委員：まちづくり協会にたくさん色々なことやっている人がいる。さっきちょっと見てびっくりしたが、あれだけの人がいるので、図書館を支えてくれると思う。

委員長：イベントだけではなく図書館の資料も一緒に飾ったり展示したりするとよい。

次に「3-4 日本語を母語としない方への支援」について。英語資料の購入継続ということだが、意見等はあるか。私はそれで良いと思う。日本人でも英語の勉強のために、お子さんが英語に親しむための絵本とか、そういう風にも使えるので良いと思う。（町内の外国人登録者数をふまえると）優先順位は低くても良いと思う。英語しか話せない人が図書館に来ることはあるか。

事務局：たまに来館される。

委員長：英語の資料を借りられたりするののか。

事務局：以前は英字新聞があったので、英字新聞を読みに来られたりしていた。人数はそれほど多くない。

委員長：外国人登録者数をふまえるとニーズは多くないということなので、現状維持ということでよろしいでしょうか。利用案内は英語の利用案内を用意しているので、これで良いと思う。他の外国語についてもグーグル翻訳などで対応できると思う。言い忘れたとか、気になる点があれば、後ほどお願いします。

《5分間休憩》

《再開する。》

委員長：次の「4 快適な読書環境の実現」について事務局から説明をお願いします。

事務局：快適な読書環境の実現について資料に基づいて説明

4-1 施設設備の整備

4-1-01 開架スペース (→1階貸出室)

4-1-02 閲覧スペース (→1階貸出室・学習室)

4-1-03 児童コーナー (→1階貸出室)

4-1-04 YAコーナー (→なし)

4-1-05 視聴覚スペース (→なし)

4-1-06 情報検索レファレンスサービススペース (→1階貸出室)

4-1-07 飲食スペース (→2階ホワイエ)

4-1-08 展示スペース (→1階展示コーナー・堀口大學文庫)

4-1-09 談話交流スペース (→なし)

4-1-10 資料の保存スペース (→中地階・地下1階書庫)

4-1-11 事務管理スペース (→1階事務室・整理室、中地階管理室・休憩室、2階小会議室)

委員長：「4 快適な読書環境の実現」と「図書館サービスの観点からみた附属施設のあり方」今の説明全体を通して確認事項等あるか。

委員：2階の小会議室とはどこか。

事務局：場所は、図で水色になっている所。

委員：多目的トイレはどこか。

事務局：1階のみんなのトイレ、エレベーターの隣。

委員：オムツ台は用意されているか。

事務局：ある。

委員：お手洗いの和式の数は。

事務局：和式は、1階、2階男女で各1個、全体で4箇所。その他は全部洋式。

委員長：トイレの改装は要望が強いところ。毎日皆さん使うものなのでうちの大学の校舎でもトイレだけはこまめにきれいにしている。

中身に入っていくが、連動していくので、ここをしたらここをどうする、みたいな話になっていいと思う。実現の可能性はあまり深く考えずにアイデアをまず色々出してほしいと事務局から説明もあったので、ご意見頂きたい。まず、開架スペースについて、確かに地域資料コーナーに座っている人は、雑誌と新聞を見ていたりとか、ブラウジングコーナーになっている感じがする。立派なレファレンスブックが揃っていて参考図書コーナーはすごく充実していると思うが、実際の利用はあまりないのではないか。例えば、辞典とか辞書を忘れてジャパンナレッジみたいなデータベースを中心にやって

いくというのものもある。本も限られているので、参考図書やレファレンスコーナーを充実しなければいけない所もあるが、そういうものを例えば2階の堀口大學文庫のスペースに持っていたりとかすると、今の地域資料のコーナーを、例えば、雑誌のブラウジングコーナーとかにして、児童書や一般書のコーナーを増やせると思う。それと文学の全集が結構いっぱいあるが、閉架に移すとそれだけでも書架一個分くらいは、少なくなる。もしこの中で動かすとしたら、そんなことも思いついた。2階を何かに使ってでも構わないので何かご意見がほしい。

委員：できるできないは別として、図書館の機能として学習室は絶対に必要なものではない。図書館は図書館の資料を使って研究をする施設だが、現状だとただの場所貸しになっている。児童コーナーを今の学習室に移して、学習席を児童コーナーに持ってくる。そうすると、子どもたちの声も気にならない。ただ、そうするとカウンターがもう一つ必要になる。

委員：それは、結構良い考えかもしれない。

委員：葉山町の図書館ってこんなにあるんだっていうくらい蔵書数があるが、閉架の量は多くて、開架が少ない。大人は読みたい本が大体決まっているから検索して書庫の本を頼むが、子どもは目の前にある本を借りるので、基本的な絵本とか出しておいてあげるため、もうちょっと広げてほしい。

委員長：今の児童コーナーの広さと、学習室が109平米ですけど、どちらの方が広いのか。今の学習室を児童コーナーにして、ブラウジングコーナーを勉強とか閲覧のための席にするというのも確かにある。カウンターを思い切って入口近くにすればいいが、大きな改装が入ることにはなる。

委員：この施設を何年使うかで、違ってくる。

事務局：みんなの公共施設未来プロジェクトの中で、各小中学校、福祉文化会館とか図書館なども含め、今後、どのように活用していくかの方向性を検討していく。まだ検討が始まったところなので、何とも言えない。

委員長：そういうところが動かないと、我々の委員会の答申を踏まえて15年、20年、多分、前回のあり方委員会から、それぐらいの年経っていくので、それぐらいのことも考えないといけない。

事務局：学校施設の改修に比べると図書館については、優先度は低くならざるを得ない。学校改修の経費はかなりかかるので、図書館については少なく見積もっても一桁の年数でどうこうはしにくい。

レイアウトの見直しは、手前味噌の感じではありながら、今後10年20年の図書館利用の形を作ることになるともいえる。

委員：児童コーナーを学習室にという案も出たということは、残したほうが良い。カウンターの場所も含めて、そのぐらいしないと、根本的に変わらない。

委員：学習室で閲覧ができると、参考図書とか貸出の出来ない資料を見ながら勉強もできる。

委員：郷土資料コーナーを閉架にしてもよいのではないか。

委員長：ブラウジングコーナーをおはなしコーナーに持っていてもよいのでは。

委員：開架をどう増やすかについて、郷土資料は図書館の宝だが、閉架にすると誰の目にも付かなくなるので開架にしておきたい。

委員：育児の本や料理の本も児童コーナーにあわせて配架してもよい。

委員長：そういう図書館も実際多いが、男性が一人で児童コーナーに配架された子育ての本を見るのははずかしい。

委員：子どもの図書のコーナーは本がたくさんある割に面出ししている本が少なく、子どもにはわかりにくい。

委員：そこは図書館で工夫が必要だ。親子で本を読めるスペースも必要。

委員：ヤングアダルトは試験の前には学習室を利用しに来る。そういう時に馴染みのある本が目につくようにしたほうが良い。

委員長：やはり入替が現実的か。2階も結局、色んな方が使っているのだから、例えばここを常に学習室にしようとか、児童コーナーをこっちに引っ越すとすると今度は利用している生涯学習団体が困る。

委員：ホールや和室がそんなに使われているのは知らなかった。

委員：堀口大学文庫はこのまま残した方がよい。1階に堀口大学の本が1列くらいあるが、何も表示がない。こっちに誘導するよう表示してあの雰囲気の中で見てもらうのは、悪くないと思う。こういうコーナーがあるのは、県内では、秦野に前田夕暮記念室文庫というのがあって、展示している。それを売りにして、短歌賞とか作って毎年やっている。堀口大学文庫も縮小するというのではなく、使えると考えた方がよいと思う。

委員：堀口大学文庫をもっと広報すれば、どこかの大学で研究している学生が来たりとかするかもしれない。4,147人来場はすごいと思う。

委員：1日10人以上来ているのか。

事務局：入口を通過すればカウントされるので、正確な実数は分からないが、そういうのノイズが入っているにせよ、過去5年間微増している状況なので増えているとはいえると思う。

委員：歩こう会みたいな方が団体で来たりする。

委員長：休憩して、ここで見るということか。

委員：確かに仙元山からの帰りに寄っていくにはちょうど良い。

事務局：100人以上いっぺんに来たりすることもある。

委員長：薄暗くても完全にフリースペースみたいになっているので、ホワイエとの関係で入り口の壁とかをもうちょっとオープンスペースっぽく、例えば、真ん中は展示棚ではなく椅子と机を置いてもよい。飲食スペースにはできない

かもしれないが、ちょっと敷居が高いのでホワイエと一体感があるといい。

委員：展示スペースとして好きだが、2階に堀口大学文庫だけのために上がってくるのか。

委員長：ちゃんとした展示スペースになっている。展示が全然無い図書館もある。

委員：これ以外にもあるんですか。

事務局：あります。

委員長：学芸員がいなくなかなか、図書館員だけでは展示は難しいところもある。

委員：堀口大学を知っている人は、今はごく一部になっており、堀口大学の名前を宣伝する意味でもあったほうがいいと思います。部屋が区切れるようなら、もう少し規模を縮小してもよいと思う。

委員長：水戸市立東部図書館に大岡昇平コーナーがある。本人が所蔵していた本を寄贈で受け入れた。1階の開架スペースの壁の一棚ぐらい、普通に勉強しているところの裏にあるので、気軽に見れる。壁を抜くとか、逆に規模を少し縮小して一階に持ってくるというのも考えられる。

委員：堀口大学のスペースを無くすというのはどうなのか。

委員長：ホワイエの休憩スペースを広げ、堀口大学文庫は必要なら1階の学習室とかに規模を小さくして持ってくる。

委員：学習室は満席で座れない人もいる。

委員：ホワイエで勉強している子もいる。

委員：堀口大学の本を1階に持ってくると光が入る。

委員長：地域資料、奥の方に持っていかなざる得ない。レファレンスコーナーを小さくしてもいい。充実しているが、実際にレファレンスブックを見て、調べものしている方はいるか。

事務局：やはり同じ方が同じものを調べているという傾向があります。

委員：レファレンス資料で図書館司書がレファレンスに受けたときに使う資料もある。

委員：開架に並べる必要はないと思う。カウンターでもよい。

委員長：レファレンス資料は結構分厚くて幅をとる。

委員：葉山の学習室は基本、中高生がうるさい。逗子の図書館の方が静か。閲覧の人がいるから、静かにしなちゃいけないというのがある。

委員：堀口大学文庫を一階に持ってくるのは良いことだと思う。

委員：少し1階の出ている所に置くのは、大事な気もする。

委員長：皇室と並べるとか。

委員：そうすると認知度が上がる。

委員：この70平米を絶対空けないと学習室がどうしようもないとか、スペースがないということでなければ、とりあえず置いておいた方がいい。

委員長：テラス席は可能か。出口が非常口になっているが。

事務局：そのままでは受付を通らずに館外に出ていってしまうので、手を入れないと使えない。

委員長：児童コーナーの窓側はどうか。テラス席を置ことはできるか。

事務局：出入口がない。

委員長：今、出ている話だと学習室と児童コーナーを入れ替えるという所か。堀口大學は、いろいろな意見が出ている。レイアウトを見直すのであれば、一階に堀口大學文庫を持ってきて、二階をホワイエの延長にするとか、いろいろな意見が出ている。和室のスペースはどうか。現状維持にしろ、もう少し図書館に引き寄せたい所はある。ただの貸会議室になっている。

事務局：年に一回ぐらい和室を使って、おはなし会の大きいのを開いたりするが、それ以外で図書館が使うことはない。

委員：町立図書館は、生涯学習課の役割を物凄く果たしている。組織図が教育部生涯学習課として、教育部があって図書館、各分かれている。自治体とかによって、生涯学習課図書館になっているが、ただ図書館だけでそんなたくさんのイベントをやるのはすごく大変。それ生涯学習課の仕事じゃないのというのがすごくある。ここで人形劇を開催するとか、生涯学習課の事業を図書館でやる時もあるのか。

事務局：図書館と連動して実施するというのはあまりない。貸出施設として、こちらを利用している。

委員：ここで映画会をやるというのも、図書館で主催すると大変なので、図書館の施設を使って、生涯学習課がやるのがよいのではないか。

委員：ほぼ、いっぱいだけど空いてる時がある。フリースペースで使えるようにして、例えば、2、3人の打ち合わせに使ってもいいし、そういう空間があってもいい。

事務局：逗子の文化プラザは有料だが、葉山の場合は無料なので、利用しやすいというのもある。

委員：11時から1時の間だけは、飲食スペースとして開放するというのはどうか。

委員長：現状復帰するのは誰がするのか。飲食と毎回机を並べる形で、各団体が責任持ってやってねと。元通りのレイアウトはこれですと。午前と午後、両方使われる団体いちいちやるのも難しい。お昼休みに開放となると机を出すことになる。

委員：ホールとして机やいすを使わずに利用することは多い。ヨガとか、合唱だとか。

事務局：例えば飲食は後ろの方に常設にしておいてもよいかもしれない。ヨガとかダンスにしてもホール全部は使わない。

委員長：半分ぐらい改装して、片方は机と椅子を置いて個人学習も出来れば、みんなが集まってワイワイと出来るスペースにするというのもある。そうすると、1階に学習室があるのに、来ないことがあるかもしれない。ただ、広いスペースを区切ってしまうと、使いづらくなるかもしれない。

事務局：区切って使うのは難しいかもしれない。

委員長：合唱の練習をしているのに、調べものとかはできないか。

委員：使うとしたら、学習室を利用している人達がお昼にちょっと食べるスペースとして使うのはどうか。

事務局：例えば、ホール入口側に机と椅子を3つ、4つ常設をして、お昼時は開放して、そこ使って頂いてもいい。

事務局：展示などでホールを3、4日間使うことがあるが、そういう時は難しい。

委員：基本の時間だけ決まっていれば、今日は使えない今日は使えるだと、逆に学習しに来てまわりに食べる所がない。コンビニ行って、外で食べる所もないので、基本は使えるようにすればよい。

委員長：基本的には、スペースを広げなければいけない。閲覧室、飲食スペースなどレイアウトをシミュレーションして頂いて、大きく変えると15年20年持つ図書館になると思う。今のままだと陳腐化していく。他に新聞の縮刷版の話があったが資料の保存スペースとかはどうか。

委員：利用はあるか。

事務局：利用はたまにある。

委員：何年からあるのか

事務局：全部数えると817冊ある。

委員：10年分取っておいて他は逗子の図書館に行ってもらおう。

事務局：逗子には申し訳ない。

委員：書庫のスペースは逗子より葉山の方が大きい。取っておけないということはないのでは。ただ需要がないならいいのでは。

委員長：10年分あれば十分だと思う。データベース契約していれば、過去の分はそれで調べられる。朝日と読売と毎日がデータベースを提供しているが、ただ1つ入れると何十万かかかる。縮刷版の方が何千円単位で買えるというのもある。

委員：永年保存年雑誌で葉山町が担当の雑誌があるのではないか。

事務局：それもある。その他に皇室資料が出ている雑誌は、全て永年保存にしている。これは、増える一方になっている。

委員：皇室のことについて調べたければ葉山という風になるのであれば、今までとってあるからわざわざ捨てなくてもよい。

委員長：データベースはできていないのでしたほうがよいが、保存している雑誌を全部やろうとするとお金もかかる。ただ、皇室記事を収集しているのは唯一

の公立図書館だと思うので、諦めたらもったいないと思う。

委員：約4,000冊受け入れているということは同じだけ除籍しているのか。

事務局：4000冊は除籍できておらず、微増している。

委員長：書庫はいっぱいだった。重要な資料は県立とか、国立図書館にも保管している。町立図書館では歴史の研究とかでない限り必要なのは新鮮な情報だ。税金の本でも十年前とでは税制が変わっているんで、どんどん捨てていく方が良いと思う。もったいないで出来なかつたりするんですが、町の図書館の役割を鑑みれば捨てても良いと思う。開架に3分の1ぐらいしか出ていないというのも、すごく残念だ。

事務局：綾瀬市の図書館では閉架書庫の開放というイベントをやっている。そこで本を選んでもらい貸し出す試みをしているが、例えば児童書が中心の据え置き書架であれば、そういうことも考えられるかもしれない。

委員：危険性がなければよいが。

委員長：受付がないと誰が入っているかわからない。

事務局：固定式の方は大丈夫だが、中二階の書架は移動するので危険。

委員長：茨城県の図書館では地下の閉架書庫は固定式の所は、言えば簡単に入れたので、OPACで探して、下にありますだったら、綾瀬みたいなことをやっている。ただ、カウンターで言われたら持って来ればいい話なので、お探しの本がなかったらカウンターにお声かけくださいと、アピールをしたりポップを貼ったりすれば、いいとは思う。

委員：1人で行って本を出し入れしたことで、本の場所がわからなくなったら困る。

事務局：それが一番困る。

委員長：無理に入れる必要はないと思う。

新聞の縮刷版はどこかで借りるなど対応できる。むしろ皇室資料は宝物で、しっかり集めているところはない。すごく特徴のある蔵書で、整理されれば胸を張れるような宝物なので、これは絶対に捨てない方が良いと思う。あと何か今の話全体で抜けている所とかはあるか。

事務局：YAコーナーの場所についてはいかがか。

委員長：移動したとしても現状のままでも、大人のコーナーに近い所、子どものコーナーではない方が絶対に良い。子ども扱いするのを中学生は嫌うし、年配の方でも一般の方でも入門書として使えるというのものもある。

委員：今児童書の中に入っていると思うが、そうなると思えば中学生は見ない。埋もれているものがあると思うのでYAコーナーは設けたほうがよい。場所のご提案のあったところがベストだとは思う。

委員長：子ども扱いしないというのが大事だと思う。さっき言うのを忘れていたが、障害のある子ども達の関係で、これはLLブックと言ってスウェーデン語

でやさしく読める意味の本。これは「三匹のぶた」で、ピクトグラムがあったり、発達障害の子でも読みやすい本がある。布の絵本とか触る絵本とか出しましたが、一般の方も普通に読めますので、まだ数は少ないですけど、こういうものも用意して頂ければいいと思う。

委員長：色んな意見出させて頂いた。今日の話をつけて答申の案を確定していきたい。他に何かなければ協議はここまでにしたい。

事務局：次回の4回の検討委員会は2月18日(火)としたいが、いかがか。

(次回検討委員会は2月18日(火)14時～ に決定)

事務局：次回は今年度最後になるので、続きとこれまでのまとめが出来ればよいと考えている。これで第3回葉山町立図書館あり方検討委員会を閉会させていただく。